

投稿規程

2015年11月改訂

原生動物学雑誌 (The Japanese Journal of Protozoology) は、原生生物に関する日本語または英語の Regular Articles, Short Communications, Reviews, Mini Reviews, Commentaries および Book Reviews を掲載する。Reviews, Mini Reviews および Book Reviews は、通常、編集委員会が執筆を依頼する。Book Reviews を除き、依頼されたものを含むすべての論文は、学会内外の複数名の審査員による査読を受け、その結果をもとに編集委員会が採否を決定する。また、投稿論文の扱う内容が本誌の趣旨と合致しない、あるいはフォーマットが投稿規程の指定するものと著しく異なる等と判断された場合、査読を行わずに返却されることがある。原則として、Regular Articles と Reviews の長さは、刷り上がり 20 ページ以内、Short Communications, Mini Reviews および Commentaries は 4 ページ以内、Book Reviews は 2 ページ以内とする（邦文は約 2,250 字、英文は約 3,870 字が刷り上がり 1 ページに相当）。

Regular Articles と Short Communications は、独自の新しい発見を記述するものであり、これまでに公表されていない、あるいは他誌に投稿中でないものに限る。Short Communications として掲載を希望する場合は、緊急な公表が必要である説明を付さねばならない。

Reviews と Mini Reviews は、原生生物学に関係する分野の研究を概説するものである。

Commentaries は、近年公表された論文や試験的な取り組みについて議論するものである。また、斬新で魅力的なアイデアを公表することもできる。

Book Reviews は、最近発行された原生生物に関連した書籍についての短い学術的な評価である。

本学会会員以外の投稿も歓迎するが、著者に本学会会員を 1 名も含まない場合は、刷り上がりの全ページにページチャージ (6,500 円/ページ) を課す。ただし、編集委員会が執筆を依頼した場合は、この限りではない。他の文献からの図表等を利用する場合には、その転載許可の申請は著者の責任において行う。受理された論文は、日本原生生物学会にその永久所有権があるものとし、本学会の許可が無い場合は、その論文の全体または部分の他への無断転載を禁ずる。

1. 原稿の提出先

原稿および図表ファイルを、下記へ電子メールの添付ファイルで送信するか、CD-R で郵送する。原稿の送付や編集に関する問い合わせは下記宛にする。

〒184-8584 東京都小金井市梶野町 3-7-2
法政大学生命科学部生命機能学科
日本原生生物学会編集事務局
廣野 雅文
TEL: 042-387-6132/FAX: 042-387-7002
E-mail: hirono@hosei.ac.jp

2. 原稿の書式

原著論文は原則として MS Word (.doc, .docx) で準備し、(1) 論文題目、著者名、所属と所在地、Running Title, Keywords ; (2) SUMMARY ; (3) INTRODUCTION ; (4) MATERIALS AND METHODS ; (5) RESULTS ; (6) DISCUSSION ; (7) ACKNOWLEDGMENTS ; (8) REFERENCES ; (9) TABLES ; (10) FIGURES と FIGURE LEGENDS の順に記述する。著者がより明確かつ効果的に内容を記載できると判断する時には、この順序の様式を変更してもよい。Short Communications の場合は、これらのセクションを部分的に統合した形態を推奨する。Reviews, Mini Reviews, Commentaries および Book Reviews の場合、形態は特に制限しない。原稿は、本文、表、図の説明文を含めて、全て A4 サイズの用紙にダブルスペースでタイプし、各ページの周辺に約 2.5 cm の余白をあける。投稿時の原稿のフォントは特に定めないが、汎用性の高いものを使用し、査読しやすい 10-12 ポイントのフォントサイズとすること。英文の論文は、投稿前に適切な英文校閲を受けてから投稿すること。

邦文の場合、句読点は「，」と「。」を用い、本文中の括弧は、全角の括弧を用いる。但し、学名の命名

者や英文文献の年につける括弧のように、本文中に挿入された欧文内の括弧は半角とし、その前後に半角スペースをおく。また、邦文中において英文や学名等の欧文、数字、単位等を用いる場合は半角文字とし、その前後に半角スペースをおく。

1 ページ目には、論文題目、著者名、所属と所在地、Running Title (邦文 25 字以内、または英文 50 字以内)、Keywords (タイトルに含まれない語句を 3 個以上 10 個以内)、連絡すべき著者の氏名、住所、TEL 番号、FAX 番号、e-mail アドレスなどを書く。邦文の論文の場合でも、論文題目、著者名、所属と所在地については、それぞれの英訳を下に記す。

2 ページ目には、SUMMARY を書く。邦文の論文 (Regular Articles, Short Communications, Reviews, Mini Reviews および Commentaries) の場合も、SUMMARY は英文で書き、250 words 以内にする。SUMMARY では、略語の使用や文献の引用は避けること。INTRODUCTION には、研究の目的と背景を書き、研究の意義を明確にする。MATERIALS AND METHODS には、読者が同じ実験を再現するために必要な全ての情報が記載されていなければならない。RESULTS は、図表を使って記載し、ここには DISCUSSION に書くべき内容を記載してはならない。DISCUSSION には、この研究によって発見されたことの簡潔な記載の他、実験結果の信頼性、関連する論文との内容の相異、実験結果の意義等を記載する。他のセクションとの内容の重複を避けるよう注意しなければならない。

(1) 単位などの表記

- a. 生物名：初出箇所において正式な学名をイタリックで記し、他の属名と混同する可能性がなければ、属名はその後イニシャルのみに省略する。生物の通俗名を用いる場合は、初出時に正式な学名を併記する。
- b. 生物名以外のラテン語の標記はイタリックとしない (例, *in vivo*, *de novo*) .
- c. 遺伝子名ならびに遺伝子産物の名称：原則として遺伝子名はイタリックで書き、その産物であるタンパク質名はイタリックにしない。なお、それぞれの生物種で用いられている命名法および表記法に従い、適切に記述すること。
- d. 単位の書き方：g (グラム), h (時間), min (分), s (秒), yr (年), mo (月), wk (週), ml (ミリリットル), L (リットル), $\times g$ (相対遠心加速度), S (スベドベリ単位), mm (ミリメートル), cm (センチメートル) .
- e. 記号の書き方：数学的記号と数字の間には半角スペースを入れる (例, $1 + 2$, $1 < 2$) . 次のような場合は半角スペースを入れない。 $2 \times TBE$, $-85^{\circ}C$, 10%, 360° , 1-100.
- f. 数字の書き方：1,000 (1000 と書かない) .
- g. 他の全ての化学的、数学的単語、式、省略形などは、The Journal of Biological Chemistry の Instructions for Authors (<http://www.jbc.org/site/misc/ifora.xhtml>) の形式に従う。

(2) 引用文献

- a. 本文中の引用文献は下記のように記載する。
 - ・ 著者が 1 名の場合：Hiwatashi (1965), または (Hiwatashi, 1965; Allen, 1974); 藤島 (2010), または (藤島, 2010; 浅井, 2011) .
 - ・ 著者が 2 名の場合：Nozawa and Thompson (1971), または (Nozawa and Thompson, 1971; Satow and Kung, 1976a, b); 藤島・堀 (2010), または (藤島・堀, 2010; 藤島・堀, 2011a, b) .
 - ・ 著者が 3 名以上の場合：Tanabe et al. (1990), または (Tanabe et al., 1990, 1991); 藤島ほか (2010), または (藤島ほか, 2010, 2011a, b) .
 - ・ 印刷中の論文の引用は、姓の次に (in press), または (印刷中) と書く。投稿中や投稿準備中の論文の引用は、本文中に (Numata, O., personal communication), または (Numata, O., unpublished data); (沼田治, 私信), または (沼田治, 未発表データ) のように書き、REFERENCES のリストには書かない。
 - ・ URL の引用は、本文中で括弧内に (<http://www-db.stanford.edu/~backrub/pageranksub.ps>) のように書き、REFERENCES のリストには書かない。
- b. 本文中で引用した論文は、本文の最後の REFERENCES にアルファベット順に下記の例のように記載する。

- ・ 雑誌に掲載された論文：Ishida, M., Aihara, M. S., Allen, R. D. and Fok, A. K. (1993) Osmoregulation in *Paramecium*: the locus of fluid segregation in the contractile vacuole complex. *J. Cell Sci.*, 106, 693–702. ; 石田正樹, 富永貴志 (2006) ゾウリムシの収縮胞複合体. 原生動物学雑誌, 39, 157–172.
- ・ DOI が付されている場合, その並記を推奨する: Takahashi, T., Shirai, Y., Kosaka, T. and Hosoya, H. (2007) Arrest of cytoplasmic streaming induces algal proliferation in green paramecia. *PLOS ONE*, 2, e1352. doi:10.1371/journal.pone.0001352.
- ・ 雑誌名の略は, NCBI (ISO Abbreviation, <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/nlmcatalog/journals>) を参考にして記載する. REFERENCES の正確な表記に関しては著者が責任をもつこと.
- ・ 単行本の章: Takahashi, M. (1988) Genetics. In: *Paramecium*. Görtz, H.-D. (ed.). Springer-Verlag, Stuttgart, pp. 271–281. ; 藤島政博 (1988) 遺伝学的な実験法. 原生動物の観察と実験法. 重中義信 (編), 共立出版, 東京, pp. 191–226.
- ・ 単行本: Beale, G. H. (1954) *The Genetics of Paramecium aurelia*. Cambridge University Press, Cambridge. ; 重中義信 (1981) 原生動物. 東京大学出版会, 東京.

3. 表の作成

各表は, MS Word もしくは MS Excel で別々のページに準備し, 内容を説明する表題とその説明文をつける. 表には, Table 1 や Table 2 のように, 本文で使用する順に一連の番号をつけること. 表の挿入を希望する場所を原稿中に MS Word のコメント機能などを用いて示してもよい. 表題, 表の内容, 表の説明文は英文とする.

4. 図の作成

作成するソフトは問わないが, 電子メールに添付する場合は PDF ファイルとして投稿し, 最終的に論文が受理された場合は TIFF (EPS も可) ファイルで提出する. 図に使用する文字, 数字等は, 最終サイズが 1.5 mm 以上の高さになるようにする.

図には, Fig. 1 や Fig. 2 のように, 本文で使用する順に一連の番号をつけ, ファイル名には著者名 (共著の場合は代表者名) と図の番号を記すこと. 複数の写真や線画 (A, B, C, D など) から構成される図の場合, 一つの合成イラストファイルとして投稿すること. 本文中での図の引用においては, (Fig. 1), (Fig. 1A), (Fig. 1A and B), (Fig. 1A–D) のように記すこと. 図の挿入を希望する場所を原稿中に MS Word のコメント機能などを用いて示してもよい. 図は, 縦が 210 mm 以下, 横が Two-column size (150 mm) 以下か One-column size (70 mm) 以下で印刷される. カラーの図は, その印刷費用を全額著者負担とする.

(1) 線画とグラフ

最終サイズで 600 dpi 以上の解像度になるように作成すること.

(2) 写真等

最終サイズで 300 dpi 以上の解像度になるように作成すること.

(3) 図の説明

各図の表題と説明文は, FIGURE LEGENDS に列記する. 説明文は, 本文を読まなくても十分理解できる内容でなければならない. 各図の表題と説明文は英文とする.

5. ゲラ刷りの校正と別刷りの注文

論文の印刷が認められると, ゲラ刷り (PDF) の校正依頼と別刷りの注文表が著者に送られる. 校正したゲラ刷りは, 指定された期日までに編集事務局に返送すること. 別刷が必要な場合には, 校正の段階で実費にて注文することができる. なお, 論文公表後, 最終版の PDF ファイルを連絡先に送付する.